

西田昌司参議院議員の憲法シンポジウムにおける発言に
対し、真摯な謝罪と撤回を求める抗議決議

令和7年5月3日の憲法記念日に那覇市で開催された憲法シンポジウムにおいて、自由民主党の西田昌司参議院議員が、ひめゆりの塔の展示をめぐり、「歴史の書換え」や、「むちゃくちゃな教育」などと発言した。西田議員の発言は、沖縄戦の平和教育に対する考えをゆがめ、県民の尊厳を踏みにじるものである。

ひめゆり学徒隊をはじめとする多くの若き命が、国体護持を掲げた日本軍の作戦の中で、十分な説明もないまま戦場に駆り出され、避けられたはずの死へと追い込まれた事実は、戦後の証言、遺品研究を通じて明らかになっている。

西田議員は「ひめゆりの塔」に言及したことを、「TPO（時、場所、場面）をわきまえるべきだった」と弁明したが、沖縄の歴史教育や平和教育を非難した根幹部分は謝罪も撤回もしていない。

西田議員の一連の発言は、軍人よりも一般住民の犠牲者がはるかに上回っている沖縄戦の凄惨な経過や被害、犠牲という事実に対してあまりにも不誠実な態度であり、歴史を都合の良いように「書き換えるかのような」姿勢は断じて許されるものではない。

西田議員に求められているのは、戦後80年たった今も癒えることのない戦争体験者や遺族の深い悲しみの声に真摯に向き合い、沖縄戦に対する多くの証言があることを深く認識することである。

よって、うるま市議会は二度と沖縄を戦場にさせないことを表明するとともに、下記の事項を強く要求する。

記

1. 西田昌司参議院議員による発言の撤回、沖縄県民及び関係者への謝罪をすること
2. 自由民主党は西田昌司参議院議員への厳格な処分を行い、党として沖縄戦への認識を示すこと
3. 西田昌司参議院議員は、ひめゆりの塔や平和祈念資料館を訪問し、沖縄戦に対する多くの証言があることを深く認識すること

以上、決議する。

令和7年6月19日

沖縄県うるま市議会

あて先

西田昌司参議院議員、石破茂自由民主党総裁